

《書 評》

Franco Mosconi (a cura di) , *La metamorfosi del <<Modello emiliano>> . L'Emilia-Romagna e i distretti industriali che cambiano*, il Mulino, Bologna 2012 , 334pp. (フランコ・モスコーニ編 『「エミリアン・モデル」の変身 . エミーリア - ロマーニャ州と変化する産業区域』 ムリーノ出版 , ボローニャ 2012年 , 334頁 .)

はじめに

本書の表題である <<Modello emiliano>>(以下、Me)は、イタリア国内だけでなく、「エミリアン・モデル」として、国際的に研究の対象となってきた¹。現在も進行中のモデルの「変身」を多面的に研究した本書は、内容的にも資料的にも興味深い。Me の概念そのものが論争的であり、その変身についても同様に多くの議論がある²。本書の立場は、基本的には - 論者により異なる場合もある - 表題のメタモルフォーシ (metamorfosi) からわかるように、モデルの消滅でもなく、また別のものへの移行でもなく、「同じ主体の異なる性質への変身」であり、この変身は現在も進行中であるというものである。

-
- 1 Robert Putnam, *Making Democracy Work*, Princeton University, 1993. (河田潤一訳『哲学する民主主義 - 伝統と改革の市民的構造』NTT 出版, 2001) は、北アメリカの研究者による Me の研究でありながら北アメリカ的偏見を免れている研究である。エミリア州および州内のコムーネが、小企業地帯であるにもかかわらず、あるいは共産党、左翼政党支配による地方政府であるにもかかわらず、南部イタリアと比べ効率的で民主的であるという結論がしめされている。日本での関心は、地方自治論、革新自治体論、中小企業論、協同組合論からのものが多い。工業モデルの内発的発展論として、革新自治体の産業政策の事例として。大阪自治体問題研究所・イタリア地域経済研究会『イタリアの挑戦 - 都市自治と職人業』(1989年) は、プルスコの論文の翻訳を含む。
 - 2 Me の変化を対象とした本書に先行する以下のような研究がある。Alberto Melloni e altri, *Mito & modello emiliano. Lo studio di un modello fra mito e realta'*, Diabasis, Reggio Emilia 2003. (アルベルト・メッローニ他『神話とモデッロ・エミリアーノ。神話と現実の間のモデルの研究』, 2003年)。Edmondo Berselli, *Quel gran pezzo dell'Emilia. Terra di comunisti, motori, musica, bel gioco, cucina grassa e italiani di classe*, Mondadori, Milano 2004. (エドモンド・ベルセッリ『エミリアの偉大な土地。共産党、エンジン、音楽、娯楽、脂っこい料理、上流イタリア人の土地』, 2004年)。Alessandro Aronica (a cura di), *Emilia Romagna. Come cambia un modello*, Donzelli, Roma 2005. (アレッサンドロ・アロニカ編『エミリアーロマーニャ州。モデルはいかに変化するか』, 2005年)。Carlo De Maria, *Bologna futuro. Il "modello emiliano" alla sfida del XXI secolo*, Clueb, 2012. (カルロ・デ・マリア『ボローニャの未来。「モデッロ・エミリアーノ」の21世紀への挑戦』, 2012年)。

1. 著者・全体の構成

本書の編者フランコ・モスコーニ³は、パルマ大学准教授（出版時）で、欧州産業経済に関するジャン・モネ講座の主任である。本書は、モスコーニが主宰したジャン・モネ講座における4年間の共同研究の成果である。共同研究は、大学（パルマ、ボローニャ、モーデナ、カラブリア、パドヴァ）、銀行系研究機関（イタリア銀行、メディオバンカ、インテーザ・サンパオロ）、州政府（エミリア-ロマーニャ州、以下 E-R）、商工会議所（E-R）等の研究者（27人）によって行われた。本書の共同研究は、銀行、州政府、商工会議所等の諸機関が実施した調査、報告に拠っている。ディストレットの小企業に関する調査は、中央政府ではなく、州政府や民間の研究機関によって精力的に行われている。

本書は、以下に示した目次の項目のように編者による序文と三部から構成される。第一部では、E-R を含む北東部経済の全体とその変化を扱う。グローバル化の現段階に対応する企業の規模と技術革新能力、人的・物的資本、公的サービスの品質。小企業をシステムとして結集する形態としての産業区域 *Distretti industriali*（以下、Di）は、小規模の不利を緩和することができた。需要の変化や工程の変更に対する柔軟性等。しかし、グローバル化の第二段階とでもいうべき現在においては、小規模は、新技術の採用を抑制し、世界市場における競争力低下の原因となっている。新しいレーテ契約の登場等もあり、「ディストレット効果⁴」も重要性を喪失している。ディストレットの優等生であった E-R もこれらの問題に直面している。第二部は、エミリアン・モデルの変化の内容について「あるモデルの形態転換か消滅か」を

3 フランコ・モスコーニは、現在はパルマ大学の産業経済の教授。

4 ディストレット効果 (*effetto distretto*) は、Di の産業集積の内部に立地することにより企業がうける生産性及び収益性において恩恵を受ける、利益を得る等の効果である。「ディストレット効果」が低下すれば、国内さらには海外への脱地域化 (*dislocalizzazione*) が一層すすむだろう。

問う。「社会的資本」、「中企業」、「第四の資本主義」、「直接外部投資」等が分析概念として使用される。Me の消滅の危機に際して、小企業の水平的関係に代わって、中 - 大規模のリーダー企業が、小企業を下請として牽引すると同時に決定過程に關与する主体を拡大する「参加的組織モデル」の提案がある。E-R が、社会的資本の存在において有利であること、州内における第四の資本主義の発展、直接投資の4つの型等。第三部は、エミリアー・ロマーニャ州内の産業区域の変化を個別の Di の例証も含め分析する。生産がディストレットの境界を超えて延長される脱地域化、国際化とディストレット効果の減少。閉ざされたシステムとしてのディストレットから、均衡のとれた開放的なシステムへの模索。個別の Di の研究として、サン・マウロ・パスコリ（フォルリー - チェゼーナ県）の履物のディストレット、モーデナおよびレッジョ・エミリアの農業機械ディストレット、食品加工ディストレットが、技術革新、ディストレット効果の視点から分析される。

「序文・ボローニャおよびその他：変化する地域社会」

一部：どこも島ではない：グローバルな傾向、地域的な影響

「ユーロから危機へ、小さいことは美しいから持ちこたえる小企業へ」\「北東部の経済：特徴と近年の変化」\「北東部：モデルの変身」

二部：「モデル」の形態変換かそれとも衰退か？様式化された諸事実

「E-R 2.0, 弾力的地域社会。『存在しない』モデルから『いまだ存在しない』モデルへ」\「E-R の『社会的資本』：参照基準と政策の指示」\「E-R における『第4の資本主義』の発展的動態」\「E-R における対外直接投資：集積効果と企業成果」\「小企業、大企業と『もっと小さい』企業：資源独占市場とディストレット・モデルの危機」

三部：産業区域のイタリア：E-R の場合

「危機と回復の間のディストレット：全国ディストレット測候所第3回報告書」\「北東部ディストレットの形態変換」\「ディストレット・モデルにまだ空間はあるか？」\「サン・マルコ・パスコリの履物業：再建に向けた行動」\「モーデナ及びレッジョ・エミリアの農業機械ディストレットの技術革新の役割」\「『新』ディストレット中の『新』食品加工ディストレット」\「産業区域における経済-金融のガバナンスとパフォーマンスの関係」

2. 「エミリアン・モデル」とディストレット・モデルの関係

Me をイタリアの一定地域における経済・社会・政治的発展の型として、自覚的に析出したのは、モーデナ大学のセバスティアン・ブルスコ教授の論文「エミリアン・モデル：生産的非集中化と社会的統合⁵」であった。この論文は、最初1980年に著され、1982年に英訳されて国際的に注目された。このモデルの理論化以来30年あまり経過した。この期間におけるモデルの変化の内容が本書の対象である。本書が研究対象とする Me の変身を検討するためには、Me の最初の定義に立ち戻る必要がある。

上記論文で、ブルスコは、Me が注目される理由として以下の3点をあげる。(1)エミリアにおける良好な経済、経済的危機からの早期回復、(2) Di を基礎とした小企業中心の地域経済、(3)州政府も含めた州内の共産党市政、左翼市政の存在。これら相互の連関。その際(2)は、エミリアに固有のものではなく、他州にも存在し、Me の研究が Di の一般的研究に役立つと述べて Me の基礎に Di があることを指摘していた。また、Me の主要な構成要素として、農業の再編と強力な農業協同組合の存在、先進的技術、技術開発力、国際競争力を有する大企業部門（ただし厳格な解雇規制を有する）、大企業部門と技術力等を共有する小企業部門、賃金、生活を改善を支援する地方政府の4つをあげる。経済関係だけでなく、地方政府の役割への言及がある。

本書の序文においてモスコニは、Me を次のように定義している。Me は、「効率と公平、成長と社会的結集を結びつけることができる経済生活の組織」である。モスコニは、ホルスト・シーベルトの著書『ドイツ経済：社会的市場を超えて』⁶の冒頭を引用し、強固な製造業の基礎と開放経済、社

5 Sebastian Brusco, *The Emilian Model: productive decentralization and social integration*, Cambridge Journal of Economics, 1982.6, pp.167-184.

6 Horst Siebert, *The German Economy beyond the social market*, Princeton university, 2005, p.1. モスコニが引用した部分で、シーベルトは以下のように述べている。「ド

会保障と福祉国家というドイツ経済の特徴と Me の類似について述べる。

ブルスコもモスコニも、Me を、Di を基礎にもつ経済としていること、経済の効率や成長を、それ自体としてもとめるのではなく、社会の公正との関連において考察する、社会的経済的不平等を是正する公的介入の役割の承認するという点においては、共通している。しかし、ブルスコの理論化以降、経済的、政治的環境は、大きく変化した。Me の変化をもたらした主要なものは、グローバル化の進行、ユーロの導入、世界金融危機とそれに続く世界経済危機、さらにエミリアに限定すれば、2012年5月のエミリア地震⁷による影響とその結果等がある。政治的には、ブルスコが(3)で言及していた、イタリア共産党もイタリア社会党も、解党、分裂、改名等によりもはや存在せず、したがって彼らが統治する地方政府も存在しない。「中道左派」の地方政府が存在するだけである。

ジャコモ・ベカッティーニの Di の定義も、小企業を中心とした経済関係だけではなく、社会的、文化的関係、ネットワークの存在を強調する⁸。という意味では、Me とディストレット・モデルは、重なる部分がある。Di の一つの型、特殊な型として Me が存在する。その特殊性について、次節で検討する。

イツは、強固な製造業の基礎と開放的経済をもっている。その国内総生産は、およそ3分の1が輸出に向けられる。ドイツの経済は、福祉と国家が支配的な役割を演ずる経済である。」

7 E-R 地震は、2012年5月20日及び29日に発生し、モーデナ県、ボローニャ県及びフェッラーラ県の幾つかのコミュニティー、そこで操業するディストレットに被害を与えた。この地震は、イタリアの工業密度の高い地域で発生した初めての地震であった。とくにミランドラ（モーデナ県）の生命科学ディストレットに大きな被害をもたらした。

8 この立場は、ベカッティーニが、2012年5月のエミリア地震によるディストレットの被災に際して「倫理的価値としてのエミリアのディストレット」という声明を発表したことに表れている。Giacomo Becattini, *Distretti emiliani un valore etico*, *Il Sole 24 Ore*, 18 luglio 2012, p.1. ディストレットの再建は、技術的、組織的なものだけではなく、人間的、文化的なものが貴重な資源ということになる。この先駆的なディストレットの研究者の声明に対して、モーデナ、レッジョ エミリア、パルマ、フェッラーラ大学が賛同の署名をしている。

3. エミリアン・モデルの実体およびその変化

本書から転載した「表1 エミリア-ロマーニャ州の経済の主要な構造的指標」⁹⁾は、Meの主要な変化を概観するために有益である。州の経済の国民経済全体に占める重要性、州経済の開放性、とくに途上国への輸出を急増させていること等が示されている。中企業数だけではなく、多国籍企業数、主要企業（大企業）の割合、この州における協同組合の重要な役割にもふれている。また、近年の小企業間のネットワークとして重視されている「企業レーテ契約」¹⁰⁾についてもふれる。

表1 エミリア-ロマーニャ州の経済の主要な構造的指標

経済活動の部門毎の付加価値 (2009)	狭義の工業23.3% + 建設6.4% = 産業29.6%
外国貿易(2011)	輸出 479億3,400万ユーロ 輸入 299億2,500万ユーロ 全国の輸出に占める割合 価格 12.75% 数量 11.6% 「開放」度(付加価値に占める輸出入)48.0% 輸出「性向」(付加価値に占める輸出)30.1% 「BRICST 諸国」向け輸出: 2011 60億1,700万ユーロ 2000-2011の変化 260.4%
産業区域(2011)	140ディストレット中19 (Monitor dei Distretti) 101ディストレット中6 (Osservatorio dei Distretti) 65ディストレット中7 (Viaggio in Italia del <<Sole>>)

9 Franco Mosconi (a cura di), *La metamorfosi del <<Modello emiliano>> . L'Emilia-Romagna e distretti industriali che cambiano*, il Mulino, Bologna 2012, p. 11.

10 レーテ契約, 企業レーテについて, 拙稿「企業レーテ契約と小企業」『経営と経済』93巻4号, 2014年3月, pp. 57-68.

工業の中企業数(2011)	3,256社中464社(14.2%) メディオバンカ-商工会議所の調査による
多国籍企業(2011)	18企業中2(製造業では15分の2)
イタリア主要企業(2011)	イタリアの2,032会社中、E-Rは、12%、製造業では14%
協同組合(2001・2009)	サービス産業統計による 協同組合の雇用は、全雇用の9.7%、雇用者数の平均は34.8人 協同組合数の全企業に占める割合1.3%、売上で8.5% 国内総生産の4.7%
「企業レーテ」(2012)	2012年7月現在で2,136事業者による412件の「レーテ契約」 そのうちE-Rの事業者が219件
イタリアに占めるE-Rの割合	人口 7.3% 面積 7.4% 国内総生産 8.9%

(1) 州内の産業区域とその変化

州内の Di の数について、表 1 は 3 つの調査結果を示している。6 箇所から 19 箇所まで、その数は調査毎に異なる。Il Sole 24 Ore 紙のものは、1992 年の 20 年後、2012 年にも調査をおこない比較ができる。1992 年調査では、全国 65 箇所の Di のうち州内に 7 箇所が、2012 年調査では、全国 103 箇所の Di のうち州内に 11 箇所が存在している(表 2)。E-R は、Di を維持した上で拡大している。このように、Me において、ディストレットは、重要な構成要素である。しかし、それは Me のすべての構造を代表するものではない。

本書の分析は、州内のディストレットにおける中企業の発展とその割合の増大、ディストレット内における企業の集中過程を明らかにしている。E-R の私企業および協同組合企業は、M&A による変身もとげており、近年 5 年間においては、同一部門内のコアビジネスの合併、水平的合併がその特徴である。

表2 エミリア-ロマーニャ州におけるディストレットの変化(1992-2012)

1992調査7		2012調査で追加4	
チェント	冶金機械	ボローニャ	包装機械
パルマ	プロシュット	パルマ	食品加工機械
レッジョ・エミリア	パルミジャーノ	サン・マウロ・パスコリ	履もの
サッスオーロ	タイル	フォルリー	キルト家具
ミランドラ	生命医科学		
カルピ	ニット製品		
レッジョ・エミリア	農業機械		

出所：Marco Moussanet e Luca Paolazzi (a cura di), *Gioielli, bambole e coltelli. Viaggio de <<Il Sole-24 Ore>>, nei distretti produttivi italiani*, Milano, Il Sole-24 Ore, 1992. Paolo Bricco, *La via italiana per fare industria globale*, Il Sole 24 Ore, 5 gennaio 2013, p.1.

(2) 小企業から中企業へ 中企業の役割と「第四の資本主義」への再編

本書は、中企業¹¹が主体となった地域経済を表現するために「第四の資本主義」(quarto capitalismo) という用語を使用する。この用語の使用は、本書が初めてではない。ジュゼッペ・トゥラーニが最初に使用し(1996)¹²、またアンドレア・コッリは、この用語を表題とした本を著している¹³。本書のいう「第四の資本主義」は、現在を中間規模の企業が支配的な段階としてとらえる。イタリアにおける第一の資本主義は、ジョリッティ期の自由競争資本主義、第二は、国家持株会社 Iri 等が活動する1930年代以降の大企業、国有企業の資本主義、第三は、大企業の危機の時代に支配的となって小企業のネットワークによって構成されるディストレットの資本主義、これらに続く第四段階の資本主義という意味である。現在は、4つの資本主義の諸階層が堆積している中で、第三、第四の階層が優勢であるという。2008年のデータ

11 中企業 *media impresa* は、従業員が50人以上499人まで、売上高が1,500万ユーロから3億3,000万ユーロまでの企業である。中・大企業 *medio-grandi* という場合には、30億ユーロを超える企業である。

12 Giuseppe Turani, *I sogni del grande Nord*, il Mulino, Bologna 1996.

13 Andrea Colli, *Il quatro capitalismo. Un profilo italiano*, Marsilio, Venezia 2002.

Franco Mosconi (a cura di), *La metamorfosi del <<Modello emiliano>>*.
L'Emilia-Romagna e i distretti industriali che cambiano, il Mulino, Bologna 2012, 334pp.
(フランコ・モスコニー編『「エミリアン・モデル」の変身. エミリアーローマー
ニャ州と変化する産業区域』ムリーノ出版, ボローニャ 2012年, 334頁.) 309

によれば、第四の資本主義の割合は、40-50%と推定されている。

Me における協同組合企業の役割を無視することはできない。製造業の部門にも大小の協同組合企業が活動する。Me では、大企業の活発な活動がみられる点でユニークである。Me における大企業の活動は、技術革新、技術移転に役立つ限りにおいて、その有用性が認められる。

本書を全体としてみると、冒頭でのモスコニーの定義にもかかわらず、主として生産的側面からの Me の分析となっている。他方、Me の核心は、生産組織ではなく、政治的な側面にあり、E-R の共産党の改良主義の方針と関連しているという学説もある¹⁴。

おわりに

ベカッティーニやブルスコが示した伝統的なディストレットの特徴は、グローバル化に対応した経済の構造的変化により、変化し消滅しつつあるものもみられる。ディストレットの主体となる企業の規模は、小企業から中企業へ変化し、水平的ネットワークは、垂直的統合に再編され、いわゆる「ディストレット効果」も減少し、ディストレット内の関係は、ディストレットの境界を超えて拡大されている。E-R のディストレットは、この変化に積極的に対応することにより、ディストレットの古典的定義における特徴であり Me の特徴でもある社会的結集の基盤である競争力を革新しようとしている。巨大企業や多国籍企業に依存しない地域づくり、地域の資源を生かした内発的發展を考える上で、イタリアの Di モデルや Me は、いまなお参照枠組みとなる魅力的なモデルであった。維持可能な地域開発や経済発展を構想する際に、北アメリカ以外の参照基準をもつことは、社会の多様な発展のために有益であり、また日本の農村中心の内発的發展モデルを豊富化すること

14 Patrizio Bianchi, *Mito & modello emiliano. Lo studio di un modello fra mito e realta'*.
Diabasis, Reggio Emilia 2003, pp.35-45.

にもつながる。

追記

2015年12月1 - 2日の2日間、Il Sole 24 Ore 紙は、イタリア産業連盟等と共同で、技術革新に関するシンポジウム「技術を革新するイタリアの旅」の最初の回をまず E-R の州都ボローニャで開催した。今年2016年には、パリ、ミラノでも開催を予告している。このシンポジウムを報道する記事¹⁵のなかに、フランコ・モスコニに対するインタビューと彼の編著『「エミアン・モデル」の変身』を再見し、数年前に発行された書物についての紹介を書くことにした。時宜にかなわぬ書評の弁解。

15 Andrea Biondi, L'intervista. Franco Mosconi. Emilia-Romagna modello di <<distruzione creativa>>, Il Sole 24 Ore, 29 novembre 2015, p. 25.